○議長（吉田敏郎）

日程第6 認定第7号 決算認定について（水道事業会計）、並びに日程第7 議案第42号 平成30年度水道事業会計未処分利益剰余金の処分についての質疑を行います。質疑は、歳入歳出全般にわたり行います。

質疑をどうぞ。

3番、武井議員。

○3番（武井正広）

3番、武井です。

決算書の234、235ページを見ていただいて、損益計算書を見ていただきますと、事業として水道会計、非常に良好な形の事業だなと。収益的に2億2千600万、出ていて、営業利益が5千550万、約24.5%、25%近くになっています。経常利益を見ても25%近くになっていて、確かに、一般企業で見れば、こんな優良企業はない。ただし、町の水道事業として、これだけの利益を出す必要があるのでしょうか。まず、そこから聞かせていただければと思います。

○議長（吉田敏郎）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

武井議員の御質問にお答えします。

平成30年度の水道の営業的な収益が5千590万円ということで、水道事業の収益が大分高いということでお答えします。

水道につきましては、平成29年度当初に料金改定で水道料金を値上げしております。そちらの関係で収益が上がっているという部分が1点あります。

では、料金を改定した理由という部分を御説明しますと、料金改定、上げた理由というのが、まず1点が町の水道の借金というものがかなりあります。そちらを、まず減らしていくというのが1点。

それと、もう一つ、全国的に話題になっていますけれども、施設の老朽化、また配水管の老朽化に伴う施設の費用が大分これからかかってくるということで、現に30年度につきましては第一浄水場の第2配水池の屋根の改修という中で1億円以上の工事を行ってきていると。また、配水管につきましても、耐用年数40年を過ぎた管というのがかなり多くなっているという中で、計画的にそちらをかえていこうという中で、これから、そういうお金が大きくなってきてしまうというのがあります。

それと、もう一つは、いまだ開成町は人口増という中で水道の使用量というのは増えていきますけれども、最終的に、今後10年の中では、その使用量的なものが横ばいになってくるだろうという中で、料金の収入が横ばいになるだろうという予測の中で、歳出が大分、増えてくる中で、お金が少なくなってから慌てて料金を変えろとか、そういう部分はしないで、ある程度、まだ余裕があるときに少し小幅の中の料金改定をしながら将来の歳出に蓄えておくという部分で料金改定というものを

させていただきました。

水道使用料に関しては、昨年度に対して約1.8%増ということで増えております。こちらが今後、また、ずっと増えていくという部分ではないので、減ってしまうという部分もありまして、29年度に対しても、収益的には、たしか昨年度は8千万円近い収益があった中で、今回、5千500万円ということで営業的には少し落ちていきますので、こちらで、まだ余力があるうちにという部分で料金改定をさせていただきましたので。今後、こちらの営業的な収益がこのまま5千万円以上かかるというところでは、将来的には、この金額がキープできないだろうという中でいきますので、今現在、この料金の中で、ある程度体力を蓄えながら今後の施設改修等を行っていきたいと考えております。

○議長（吉田敏郎）

3番、武井議員。

○3番（武井正広）

企業債を減らしていく、老朽化等ということなのですが、平成30年度で見ますと、企業債の残高は約10億円、償還金の元金が約5千700万円、企業債自体を工事があったので新たに発行したのが5千万円ですよね。700万ほど、そこは、元金は企業債、減らすという意味では改善されていると思うのですが、償還利息が1千990万、約2千万、来ているわけで、これ一般の家庭で見ると、10億円で2千万円の金利を支払ったということであれば、一般的に借りて30年間で支払うとはなっていますけれども、平均して2%の金利で今、支払っていると。

後ろのほうに企業債の明細がついていますけれども、バブルのころの5%近くのものもずっとあるわけであって、もし、それだけの利益を出して、償還を企業債で減らしていくということであれば、利息を減らすためにも償還金の元金をもっと返済していくと、繰り上げ償還していくという必要があるのではないかと私は考えるのですが、いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

議員の御質問にお答えします。

議員の御指摘のとおり、借りの額に対して償還額が少ないという部分ですけれども、利子のほうでそれが増えているということは御指摘のとおりでございます。まず、料金を改定するときに、償還額よりも少ない額を借りようという部分は基本的な考えを持っていますけれども、先ほども言いました、ちょっと大型な工事等が昨年度から今年にかけて発生していますので、そちらにつきましては、どうしても起債でお金を借りなければならないという事情がありました。

○議長（吉田敏郎）

良いですか。

3番、武井議員。

○3番（武井正広）

今の課長のお答えですと、もろもろあるので、なかなか、その元金の繰り上げ返済はできないという認識を私はとったのですが、そうすると、一つ、やはりおかしいなと思うのが、今度、240ページを見ていただくと、現金預金が約6億5千万、持っているわけで。事業規模からいって6億5千万の現金預金を持っている、何か、ここも解せない。だったら繰り上げ償還していけば、もっと楽になるのではないかと思うのですが、やはり繰り上げ償還とかはできないものなのですか。

○議長（吉田敏郎）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

先ほど議員が言われたとおり、256ページから259ページにかけて起債の内容を詳細に書いておりますけれども、こちらにつきましては、借りた年度に対して償還期限にあわせた形で償還をしている状況です。先ほど議員が言われたとおり、初期のころにつきましては、かなり金利が高い部分については、ここ5年の間で大分、償還が終わってくるという形で起債がされていますので、こちらにつきまして、利息及び元金という部分では、今後、減っていくという形の中で考えております。ただ、繰り上げ償還という、今、まだ、そういうことまでして、そこを急激に減らそうという形のことは考えてはおりません。

○議長（吉田敏郎）

4回目ですので、では。

武井議員。

○3番（武井正広）

そうしますと、今、一連で話をさせていただいた中では、正直、すごく状況が良いような水道企業会計と思われれます。もっと有効なお金の使い方というのはできるのではないかと思いますので、ぜひ、今後、検討していただければと思います。よろしくお願いします。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

8番、山本議員。

○8番（山本研一）

8番、山本です。

今、武井議員が、同僚議員が言われたこと、おっしゃるとおりのような気がするのですけれども。損益計算書だけを見ると、まさしく、そういう感じ。料金を値上げして、こんなに利益を出したのかと。町内の企業の中には、もう、やっとの思いで、必死の思いで利益を出している企業もたくさんおられると思います。

損益計算書の中身というのは、粉飾決算をするという意味ではなくて、いろいろなやりくりでいろいろな方法があると思います。そういう面で、これは正直に、これだけの利益を出されたという内容になっているのですけれども、本当になけなし

の利益を出している町内の企業の中から変なクレームが出ないためにも、この決算書について、損益計算書をつくる上でいろいろな検討をされたかどうか、その経過を聞かせていただきたいと思います。

○議長（吉田敏郎）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

山本議員の御質問にお答えします。

損益計算書につきましては、実際、30年度に事業をした中での最終的な結果報告という部分があります。こちらをつくる中でというわけではなく、まず一つ、平成29年度に、先ほど、ほかの議員から御回答したとおり、料金の改定理由の中で料金を29年度に上げました。現在ですけれども、では、今後、水道事業をどうするかというところの経営的な戦略というものは、ちょっと30年度とは違うのですけれども、本年度、令和元年度に水道事業に対する経営戦略、今後、どういう形の中で経営を行っていくかというものについては、事業として委託をして、今後の水道事業をどうするかというものの方針を立てていきたいと思っております。

○議長（吉田敏郎）

8番、山本議員。

○8番（山本研一）

これからは施設の老朽化ですとか、いろいろなことでお金がかかるということはよく理解できます。ただ、今、私が言ったように、町内には本当にいろいろな企業があったり、いろいろな年金生活をしていて厳しい思いをされている方がいることも事実ですし、料金を上げた途端に、こんな利益を出すというのも、見方によってはどうなのかなという感じもします。だから、今、課長が言われたように、これからの経営戦略を十分検討いただいて、料金を上げた後に、いきなりぼんと利益を出すというのは、普通は余り考えられないなど。うまくやるような、そういう方策もぜひ考えていただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（吉田敏郎）

ほかに質疑はございますか。

3番、武井議員。

○3番（武井正広）

3番、武井です。

決算書の中に、できれば1立方メートル当たりの原価とかというのがあると非常に分かりやすいのかなと思いますが、そういったものはあるのですよね。ここには書いていないですけれども、当然、手持ちにはあるわけですよね。いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

武井議員の御質問にお答えします。

まず、水道の今、単価というところの中では、二つあると思います。まず、1立方メートルの水をつくるための単価、水をつくるために幾らかかっているのかと。また、水を1立方メートル売る単価という部分であります。

まず、水をつくるということで、給水原価という形になっております。こちらが、1立方メートルをつくるのに94.38円かかっております。では、水を売った単価というのが給水原価という形になりますけれども、こちらは1立方メートルを売ると収益的には84.4円という形の中で、まず、給水原価に対して、水をつくるお金のほうが現在、高い形になりますので、水を売っただけでは収入としては基本的には赤字という形になっております。それ以外のもので収益的なものというものは、現在、上がっているという形になっております。

○議長（吉田敏郎）

3番、武井議員。

○3番（武井正広）

もう一回、確認しますが、一般的に言われる1立方メートル当たりの給水原価、つくるほうの原価は94.38円、1立方メートル当たりの供給単価は84.41円で、約10円の赤字ということなのですか。お願いします。

○議長（吉田敏郎）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

武井議員の御質問にお答えします。

議員のおっしゃるとおり、水を1立方メートルをつくるのに94.38円、では、1立方メートルを売って収入が上がるのが84.4円ということで、約10円の赤字という形になります。

○議長（吉田敏郎）

3番、武井議員。

○3番（武井正広）

済みません。そうすると、確かに、さっきの損益計算書を見ると、それ以外の収入、もちろん補助金等も。だけど、県の補助金は入っていないですね。長期前受金戻り入れだとか、減価償却はありますけれども。赤字ということ。分からないな。開成町の水道事業というのは、赤字ということですか。

○議長（吉田敏郎）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

御質問にお答えします。

まず、今、言ったのは、水をつくる単価と売った単価という形の中で御説明しました。収入につきましては、特に収益的収入といった中では、基本的に、それ以外、水を売ったもの以外での収入というものもありますので、そちらの収入を含めた中

で最終的に収益的に5千500万円の収益が上がったというふうになっております。

まず、ページで言うと、249ページの中の収益的収入というものがあります。この中で給水収益、こちらが水道を使用して徴収したお金になります。それ以外に営業的な収益という形の中では、給水工事加入金というものが3千400万円、その他の営業の中で手数料、その他、雑収入と他会計の繰り入れという部分での収入が入っております。営業外の中では、受取利息、配当金等、長期前受金戻入、こちらにつきましては実際の収入はない中で会計上の収入になっておりますけれども、それ以外で雑収益という中の収入が上がっております。給水収益というところで、水を売った単価はこちらの金額になるのですけれども、それ以外では、今、お話しした給水工事の加入金とその他の営業外の収益等で収入というものがありますので、そちらの部分については、水をつくるお金の中、以外で収入が上がっていますので、基本的に、そちらが収益的な5千万円の中に含まれているというふうになっております。

○議長（吉田敏郎）

3番、武井議員。

○3番（武井正広）

済みません。ちょっと、今のところは私の頭だと理解ができなくて。どう解釈して良いのか、私の頭ではなかなか理解ができないのですけれども。では、簡単に言いましたら、1億8千300万というものに対して、その原価というのは、こちらの250とか251ページで見たときには、どれを当てはめれば良いわけですか。

○議長（吉田敏郎）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

給水原価の、まず考えというところで御説明をさせていただきます。

まず、給水原価につきましては、給水の収益と言うことで、今、お話がありました1億8千300万という部分ですけれども、これを有収水量、水をどのぐらい出したかという部分で割った単価になります。

では、水をつくれたお金という部分につきましては、歳出の営業費用の中の工事費等、管理の中の動力、修繕、薬剤等の費用、また受託工事などの費用に対しての有収水量で割った部分で、歳出と歳入に対する部分でのお金になります。特に、歳出の部分では、水を売るためにかかる費用という中では、営業費用と営業外費用の中での利息部分も含まれた中で、総費用の中で計算をしておりますので、歳出の中の費用と歳入の中の費用で、簡単に言うと、有収水量で割った金額の差という部分が約10円の差が出ているという形になります。

○議長（吉田敏郎）

最後になりますけれども、4回目になりますけれども、どうぞ。これで最後にしてください。

3番、武井議員。

○3番（武井正広）

分かりました。

済みません。余り私では理解ができなかったのですが、ちなみに隣の大井町、大体、水道の規模が同じかと思うのですが、大井町の昨年度の決算書の中では、インターネット上に出ていたものに関しては1立方メートル当たりの給水原価等が、ああ、29年度の決算書ですね、しっかり出ていました。そこは、ちなみに、大体、同じ規模として見たときには、1立方メートル当たりの給水原価が約96円、1立方メートル当たりの供給単価が102円ですから、7円ぐらいのプラスになっているのですけれども、開成町では、その部分に関しては約10円の赤字の状況だということだけ、では、認識したということで、この質問は終わりにさせていただきます。

○議長（吉田敏郎）

ほかに質疑はございますか。

（「なし」という者多数）

○議長（吉田敏郎）

ないようですので、認定第7号 決算認定について（水道事業会計）並びに議案第42号 平成30年度水道事業会計未処分利益剰余金の処分についての質疑を終了とします。

以上をもちまして、認定第1号 決算認定について（一般会計）から議案第42号 平成30年度水道事業会計未処分利益剰余金の処分について、一括議題としております計8議題の質疑を全て終了といたしました。

本日の日程は全て終了しました。これにて散会します。お疲れさまでした。

午前11時19分 散会